

特集にあたって

DIC の概念は、21世紀に入り国内外で大きく見直され、致命的となる前に診断・治療することの重要性がとくに強調されています。なかでも、急性期 DIC は、生体にとってきわめて重篤な急性凝固線溶異常であり、“いかに速やかに離脱するか”が最重要課題です。したがって、対応する医師（救急医、集中治療医、一般医師問わず）は迅速かつ的確に DIC を鑑別診断し、適切に治療することが求められます。しかしながら、最初から原因が明らかな DIC は少なく、鑑別診断にも時間がかかり、治療方針が決まるまでに多臓器障害や重大な出血病変に進むケースもみられます。また、鑑別診断できても、原疾患によっては根拠をもった DIC 治療が確立されていない病態もあります。

そこで、本特集では、救急医療に従事する医師が知っておくべき“急性期 DIC 診断・治療のコツ”と“その根拠”を、臨床の第一線で活躍されている先生方に解説していただきました。どのポイントをおさえれば、DIC 鑑別・治療の道が開けていくのか、実際の症例を通して、ベッドサイドにおける論理的思考や決断のプロセスを時系列で追体験してもらえよう、貴重な急性期 DIC 症例を数多く提示していただきました。迅速かつ的確な急性期 DIC 治療を進めるために、日常診療の現場において若手を含む先生方が直接参照できる特集号を目指しました。

是非、本特集を今日からの DIC 診療に最大限生かしていただきたいと願っています。